



株式会社 UACJ

2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2025 年 11 月 11 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ		
[企業 ID]	5741		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2026 年度 第 2 四半期		
[日程]	2026 年 11 月 11 日		
[ページ数]	38		
[時間]	15:45 – 16:48 (合計：63 分、登壇：26 分、質疑応答：37 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	87		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	田中 信二 (以下 田中)	
	取締役 専務執行役員 経営戦略本部長	隈元 穰治 (以下、隈元)	
	取締役 執行役員 財務本部長	岡田 浩三 (以下、岡田)	

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



副社長執行役員 板事業本部長

橋本 圭造

財務本部 IR 部長

上田 薫

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

野村證券

松本 裕司

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

大和証券

尾崎 慎一郎

UBS 証券

五老 晴信

SBI 証券

柴田 竜之介

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日はお忙しい中、株式会社 UACJ 2025 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載しております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますので、ご注意ください。

本日の当社出席者をご紹介します。代表取締役 社長執行役員、田中信二です。

田中：田中でございます。よろしくお願いいたします。

上田：取締役 専務執行役員 経営戦略本部長、隈元穰治です。

隈元：隈元でございます。よろしくお願いいたします。

上田：取締役 執行役員 財務本部長、岡田浩三です。

岡田：岡田でございます。よろしくお願いいたします。

上田：副社長執行役員 板事業本部長、橋本圭造です。

橋本：橋本でございます。よろしくお願いいたします。

上田：私は、本日司会を務めます財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いたしました 2025 年度第 2 四半期業績につきまして、代表取締役 社長執行役員の田中よりご説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。田中さん、よろしくお願いいたします。

田中：田中でございます。それでは早速ではございますが、2025 年度 第 2 四半期上期決算報告をしたいと思います。

それではパワーポイントのページに沿ってご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2025年度上期 決算概況

前提条件	FY24 上期	FY25 上期	期初 予測	通期 最新	単位
LME	2,451	2,532	2,500	2,666	\$/t
為替レート	153	146	145	148	円/\$
	35.7	32.7	34.5	32.6	THB/\$
ドバイ原油	82	69	80	67	\$/bbl

2025年度上期 業績

販売数量は増加、事業利益は市況等の影響で伸び悩み

	前年同期 実績	実績	前年同期比
販売数量(千t)	633	663	30
売上収益	4,871	5,401	530
事業利益 ^{*1}	300	169	△ 131
最終利益 ^{*2}	167	74	△ 93
Adjusted EBITDA ^{*3}	487	362	△ 125

➤ 上期事業環境

- 原材料価格の高止まりが収益に影響
- 為替の変動により収益が減少(パーツ高ドル安)
- 1Qの一過性要因^{*5}の解消を含め、2Qから回復傾向
- グローバルでの缶材需要、特に北米の需要が好調に推移

^{*1} 事業利益： 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの
^{*2} 最終利益： 親会社の所有者に帰属する当期利益
^{*3} Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

2025年度 業績予想

通期では事業利益を挽回 最終利益、配当金見通しを上方修正

	2025/5/13公表	最新見通し	差異
販売数量(千t)	1,351	1,347	△ 4
売上収益	10,400	11,000	600
事業利益	460	460	0
最終利益	200	230	30
Adjusted EBITDA	855	855	0
年間配当金(円/株) ^{*4}	40	42	2

➤ 下期事業環境

- (国内)価格改定効果の発現、品種構成の変化
- (TAA^{*6})リサイクル原料調達のコストメリット
- (UATH^{*7})価格改定効果の発現、為替変動(パーツ高ドル安)の影響
- 最終利益を230億円へ上方修正
- 年間配当金見通しを、42円/株(5月公表比+2円)へ上方修正

^{*4} 当会計年度期首に株式分割が行われたと仮定して算定
^{*5} 在庫コストと地金調達の時期ずれ
^{*6} TAA: Tri-Arrows Aluminum Inc.
^{*7} UATH: UACJ (Thailand) Co., Ltd

1

まず1ページ目、上期決算におけるポイントについてご説明いたします。左側に上期業績、右側に通期業績ということで示してございます。

はじめに上期業績になりますが、左側にある表の下のところをご参照ください。上期の事業環境の変化を示しております。特に、この上期の事業環境におきましては、原材料価格の高止まり、これはグローバル、日本・タイ・米国、いずれも原材料の高止まりが収益に影響しました。また、為替の変動、これはとりわけパーツ高、ドル安になりますが、こういったところが収益の重しになり減少しました。また一方で、1クォーターの決算の際にお話が出ましたが、一過性の要因につきましては、2クォーターから回復傾向にある状況でございます。

全般通じて言えることは、グローバルでの缶材需要、とりわけ北米の需要が好調に推移したことでした。それを受けて決算の数字を示していますが、販売数量としては、3万トン増の66万3,000トン、売上収益におきましては530億円増の5,401億円、事業利益につきましては131億円減の169億円、最終利益としては74億円という上期の決算結果となりました。

さらに右側に移りまして、年間を通じて業績予想を示してございます。また、その下をご参照ください。下期の事業環境をそこに記載してございます。下期の環境といたしましては、国内におきましては、上期から続けておりますけれども価格改定、上期に終了したもの、それから今回下期に発現するものとありまして、下期には価格改定効果が出てくる。一方、この後ご説明をしまいいりますが、厚板等の品種で少し挽回が遅れる等々の品種構成の変化が生じてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



一方、TAA におきましては、米国になりますけれども、リサイクル原料の調達のコストメリットが、この下期から大きく寄与してくる形になります。また、タイにおきましては、こちらも価格改定の効果が現れると同時に、パーツ高、為替の変動要因といったものは、少しこの下期も引き継いでいくのかなという形で考えてございます。

こういった事業環境の変化を鑑み、上側には、数量、売上、事業利益等々を記載してございます。販売数量等におきましては5月に発表時の見通しとほぼ同等の134万7,000トン、売上につきましては600億円増の1兆1,000億円、事業利益は460億円の据え置きといたしております。また、最終利益におきましては30億円増の230億円。この結果を受けまして上方修正することによって、年間配当も5月発表の40円から42円へ2円上方修正する計画としてございます。

1. 業績

上期 業績

(単位:億円)

	2024年度 上期 (A)	2025年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
売上収益	4,871	5,401	530
事業利益	300	169	△ 131
棚卸資産影響等	57	57	0
営業利益	357	226	△ 131
最終利益	167	74	△ 93
1株あたり当期利益 (円 / 株)*	86.6	40.7	△ 45.9
Adjusted EBITDA	487	362	△ 125
LME (\$/t)	2,451	2,532	81
前提 条件 為替レート (円 / \$)	153	146	△ 7
為替レート (THB / \$)	35.7	32.7	△ 3.0
ドバイ原油 (\$/bbl)	82	69	△ 13

* 前会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して算定

© UACJ Corporation. All rights reserved.

4

それでは、具体的に上期、それから通期を通したご説明に入ってまいります。はじめに、上期業績のところになります。

上期業績は、先ほどポイントのところはお示しましたが、繰り返しになりますけれども、売上収益は530億円増の5,401億円、事業利益は169億円、最終利益は74億円となっております。

特に事業利益のところにつきましては、リサイクル原料の価格アップ等々、これはグローバルで価格上昇があったわけですが、こういったところが寄与している。それから、特に為替のところで、タイのパーツ高が事業利益の圧迫に繋がったところでございます。これらにおきましては、

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



この後、フローチャートでお示しするところがありますので、その中でもう少し具体的に詳細を説明してまいります。

1. 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千t)

品種	2024年度 上期 (A)	2025年度 上期 (B)	増減 (B)-(A)
缶材*	428	456	28
箔地	21	22	1
IT材	5	6	1
自動車材	68	66	△ 2
厚板	21	17	△ 4
その他一般材	90	96	6
合計	633	663	30
日本市場	250	238	△ 12
海外市場	383	425	42

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 内部取引控除後の数量

5

5 ページ目、アルミ板の品種別売上数量を記載してございます。左に 24 年度の上期、右側に 25 年度の上期という対比で示してございます。

合計のところをご覧くださいますと、対 24 年度比 3 万トン増の 66 万 3,000 トンという実績となりました。

合計の下をご参照ください。日本市場、海外市場で、それぞれ市場における数量の変化を示しておりますけれども、日本市場におきましては 1 万 2,000 トン減、海外市場におきましては 4 万 2,000 トン増で、日本市場の減少を海外市場で挽回した結果となっております。

品種別で見えてまいりますと、特に缶材、3 万トン増のうち 2 万 8,000 トンが缶材で、缶材におきましては、米国、タイ、ここは堅調に推移した形で販売増に繋がっております。その他は、箔地、IT 材、ほぼ昨年度並みとなっております。自動車材につきましても 2,000 トン減となっておりますが、ほぼ昨年度並み。一方で、厚板につきましては、やはりこの上期の中旬ぐらいから挽回してくるだろうと予想しておりましたけれども、残念ながらこの点につきましてはまだ少し回復が遅れているところでございます。

全体を通じては、3 万トン増の 66 万 3,000 トンという実績でありました。

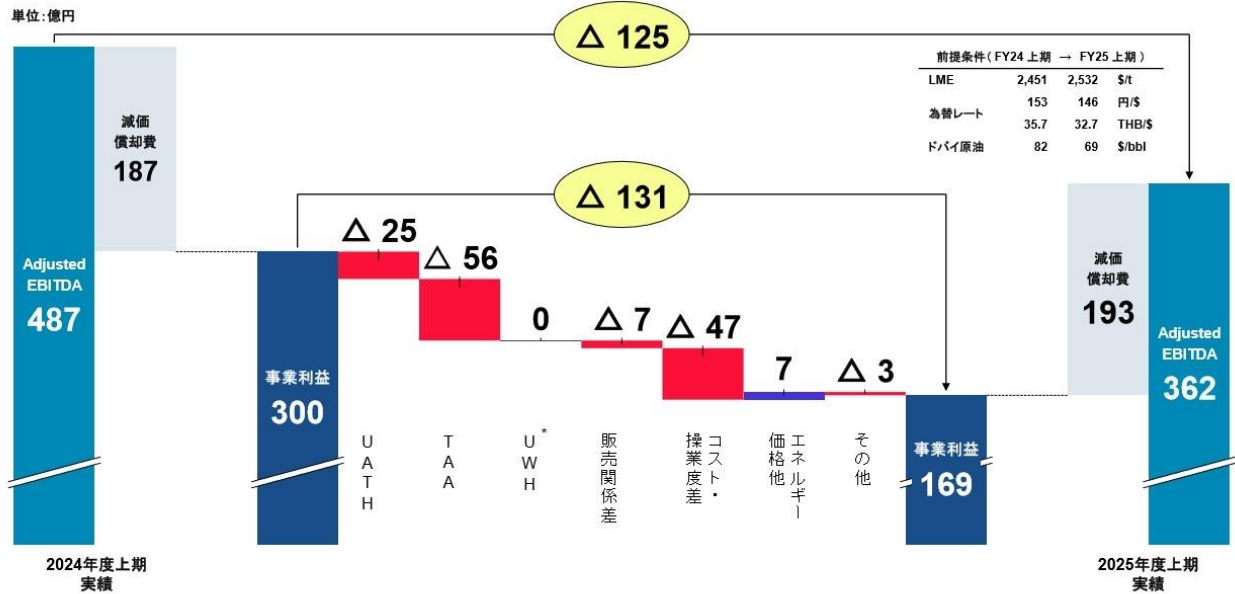
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



1. 業績

事業利益・Adjusted EBITDA 分析（2024年度上期 → 2025年度上期）



© UACJ Corporation. All rights reserved. * UWH: UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.

6

それでは、続きまして事業利益・Adjusted EBITDA の変化、昨年度上期から本年度上期にかけて示してございます。

300 億円から 169 億円への変化になります。まず左から、UATH、タイの業績になります。タイにおきましては、個別の事業のところでもお話ししますが、販売数量はしっかりと確保した状況ではございますが、為替とやはり原材料コスト、リサイクルの原材料コストが高止まりしたことでマイナス 25 億円。

それから TAA、米国におきましてはやはりインフレ、コストの上昇、リサイクル原料のコスト高、これはアメリカにおきましては、この下期からリサイクル原料コストの効果は現れてくるのですけれども、上期においてはマイナス効果、昨年度対比マイナスでございます。その他、為替の影響などを含めて、対前年度 56 億円のマイナスになりました。

その他、大きなところでコスト・操業度差がマイナス 47 億円出ております。これは国内になりますけれども、やはりリサイクル原料のコスト上昇、あるいは物流副資材等のインフレによるコストアップ等々が影響して、47 億円の減となっております。

また、Adjusted EBITDA につきましては、362 億円というような実績となりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

連結財政状態計算書

	25/3末 (A)	25/9末 (B)	増減額 (B - A)	
現金及び現金同等	263	240	△23	
営業債権及びその他の債権	1,873	1,908	35	アルミ地金等 価格上昇による影響
棚卸資産	2,441	2,582	141	
その他の流動資産	218	301	83	
有形固定資産	3,943	4,066	122	福井: UBC加工処理設備増設
その他の非流動資産	961	958	△3	深谷: 厚板焼入れ炉増設
資産合計	9,700	10,055	355	TAA: スクラップ処理ライン増設
営業債務及びその他の債務	1,406	1,464	58	
借入金	3,407	3,658	251	
その他	1,691	1,646	△45	
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,906	2,976	70	
非支配持分	290	311	22	
負債及び資本合計	9,700	10,055	355	

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

次のページに、連結の財政状態の計算書を示してございます。

資産合計といたしましては、1兆55億円、355億円の増加になりました。とりわけその中でも棚卸資産が141億円の増加。これは、アルミ地金等の価格上昇による影響がここに効いてございます。その他、有形固定資産のところでは122億円。これは、福井のUBCの製造加工処理設備、深谷の厚板焼入れ炉、それからTAAのスクラップ処理ラインの増設、こういった計画が順調に進んでいることもあって、固定資産の増に繋がっております。1兆55億円になります。

一方、借入のところにつきましては、251億円増のトータル3,658億円という結果となりました。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

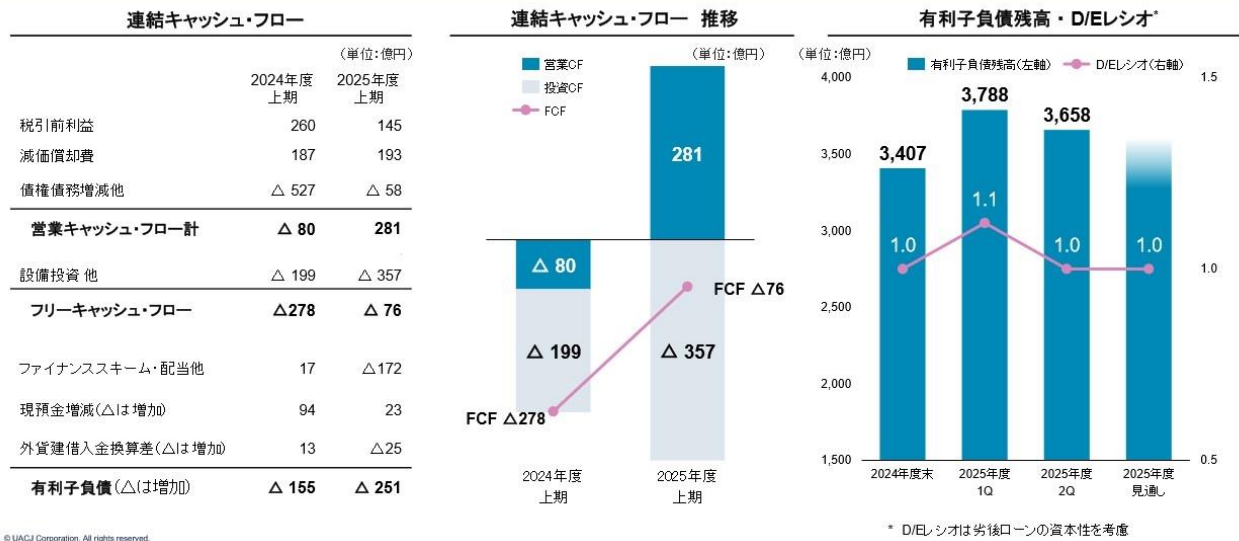
0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

連結キャッシュ・フロー計算書

2025年度末D/Eレシオ 中計目標の1.0倍未満を堅持



8

8 ページ目では、連結のキャッシュ・フロー計算書を示してございます。

左の連結キャッシュ・フローにおきましては、25 年度上期、税引前利益が 145 億円、それから減価償却費 193 億円等々ありまして、営業キャッシュ・フローとしては 281 億円。設備投資等が 357 億円ありましたので、フリーキャッシュ・フローとしては 76 億円のマイナスになりました。

さらにその右側には、有利子負債残高・D/E レシオということで示しております。先ほどお話ししましたけれども、有利子負債の残高は 3,658 億円、D/E レシオにおきましては 25 年度の 1 クォーター末 1.1 倍でありましたけれども、2 クォーター末におきましては 1.0 倍で抑えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

タイ(UATH)の状況

為替影響を受けるも、販売は堅調な環境続く

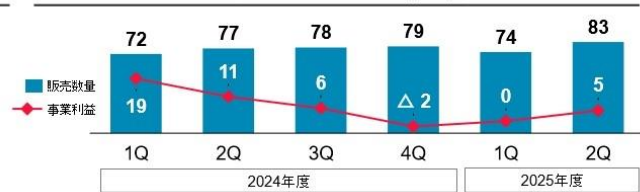
上期総括

- 需要** : ・ グローバル缶材の需要は想定通り拡大
- 販売** : 【北米向け】
・ 関税の影響はあるも、計画通りの出荷が継続
【ASEAN・その他地域】
・ 価格改定を実施(中国増値税還付の廃止影響)
・ 新規取引顧客の拡大推進
- 損益** : ・ 価格改定効果が徐々に発現
・ 堅調な販売が継続するも、為替影響により収益圧迫

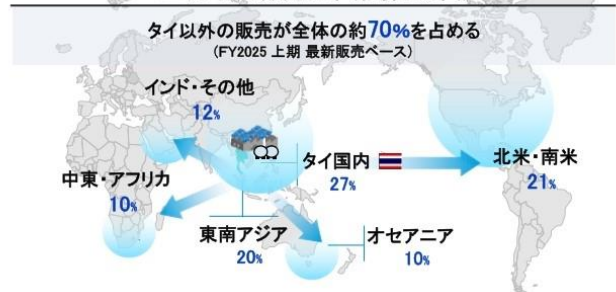
(単位:億円)	24年度 上期	25年度 上期	前年同期比
販売数量(千t)*	149	157	8
売上収益	947	992	45
営業利益	59	△ 20	△ 79
事業利益	30	5	△ 25

*TAAへの出荷分含む
© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2024年度からの業績推移はP31をご参照ください。

販売数量(千t)・事業利益(億円)推移



エリア別の販売比率(世界33カ国)



9

それでは、個別の各エリアにおける状況を簡単にご説明してまいります。タイ、UATH になります。

左のところ、上期総括のところを書いてございますが、冒頭話した通り、グローバルの缶材需要は想定通り拡大している状況になってございます。タイから北米向けへの販売は、関税の影響があるものの、お客様への負担等もあり、計画通りの出荷が継続している状況でございます。

それから ASEAN エリアにおきましては、やはり中国の増値税還付の廃止もありまして、価格改定を現在実施中でございます。こういったことを含めまして、損益のところには、為替影響が大きく圧迫したこともあって、2025 年度上期の販売数量は、前年度同期比 8,000 トン増の 15 万 7,000 トン、売上収益は 45 億円増の 992 億円という状況となりました。事業利益としては 5 億円という状況でございます。

右側には、それぞれクォーター単位の販売数量・事業利益の推移を示してございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

米国(TAA)の状況

旺盛な缶材需要を背景に、販売数量が計画を上回る

上期総括

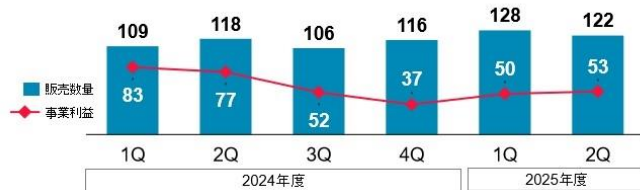
- 需要** : ・ 米国缶材需要は想定通りの拡大傾向を示す
- 生産** : ・ 高水準での生産が継続
・ さらなる生産効率化に向けた設備増強投資は順調に進捗
- 販売** : ・ 安定した生産体制の構築により、販売の好調が継続

(単位:億円)	24年度 上期	25年度 上期	前年同期比
販売数量(千t)	227	250	23
売上収益	1,434	1,797	363
営業利益	181	192	11
事業利益	160	103	△ 56

※2024年度からの業績推移はP31をご参照ください。

© UACJ Corporation. All rights reserved.

販売数量(千t)・事業利益(億円)推移



米国缶材需要の推移



10

次に、米国の状況に移ります。

米国の状況も、上期は想定通りの拡大傾向となりました。高水準で生産が継続している状況でございます。ただし、米国におきましても、上期のところは、リサイクル原料価格の高騰がやはり効きまして、販売数量としては2万3,000トン増の25万トンとなりましたけれども、最終的には事業利益は56億円減の103億円でございます。特に、原材料価格の高騰が上期のところでは圧迫要因になった訳ですが、この辺につきましては下期で十分に回復していくと考えてございます。

販売状況は、順調に進んでおりまして、2028年度まで契約が進んできている状況が続いてございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

1. 業績

米国(UWH)の状況

2024年度上期並みの実績で着地

上期総括

- 事業** : ・ 米国関税政策の転換から、自動車産業の不透明さ拡大
環境 : ・ 2025年9月30日で、EV購入の税制優遇制度が終了
- 販売** : ・ 日系OEMへの販売は順調に進捗
・ EV購入者に向けた税制優遇制度終了前の駆け込み需要
- 損益** : ・ 販売増による収益確保
・ コストダウン施策等の徹底を継続

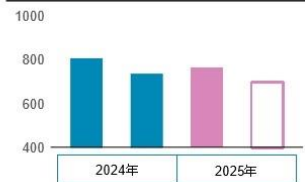
(単位:億円)	24年度 上期	25年度 上期	前年同期比
売上収益	195	194	△ 1
営業利益	6	6	0
事業利益	8	8	0

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2024年度からの業績推移はP31をご参照ください。

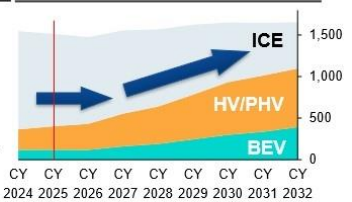
売上収益、事業利益推移(億円)



北米 自動車生産台数予測推移 (万台)



パワートレイン別の北米市場生産台数変化(万台)



北米の自動車生産台数は直近では右肩下がりに横ばいの見通し
中長期的には増加に転じ、BEV、HV/PHVの割合が増える予測

出典:市場調査データ(2025年10月時点)を基にUACJ作成

11

それから次に、米国ではありますけれども UWH、自動車部品関係でございます。

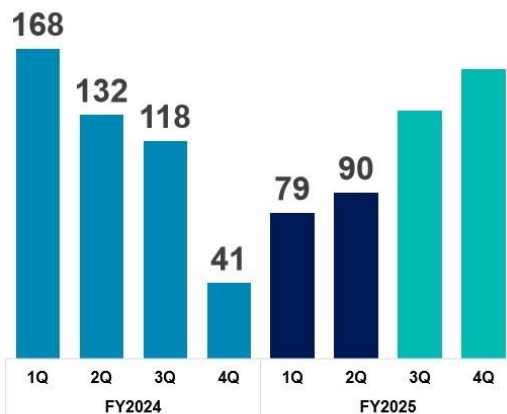
上期の総括、事業環境のところに書いてあります通り、米国関税政策が転換されたことで、自動車産業の不透明さが拡大しているのが足元の状況でございます。ただし上期におきましては、ちょうど2025年の9月末にEV購入における税制優遇制度終了があったため、その駆け込み需要があったということで、最終的に上期は前年並みの実績で着地した状況でございます。

2. 業績予想

2025年度 事業利益見通し

事業環境の不透明感はあるものの、事業利益は計画通り460億円

四半期事業利益推移(億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

事業環境認識

青字: ポジティブ影響
赤字: ネガティブ影響

- ▶ グローバルでのアルミ缶材需要は堅調に推移
- ▶ 価格改定効果が段階的に発現
- ▶ 航空宇宙・防衛材事業は計画通りに立ち上げ中
- ▶ 日本・東南アジアにおいて調達する原材料価格の高止まり
- ▶ 為替の変動による影響(パーツ高ドル安)
- ▶ BEVの生産動向を注視

直近のトピックス

- ▶ 米国関税政策からの影響
⇒ UACJグループへの直接の影響は期初想定より変更はないが、今後の動向を注視する
- ▶ サプライチェーンの混乱
⇒ サプライチェーン上の混乱から、UACJグループが受ける影響は軽微

13

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



それでは続きまして、13 ページ、2025 年度の業績の見通しに移りたいと思います。

2025 年度通期を通しての業績の見通しになります。

まず、右側に事業環境認識ということで、いくつか代表的なものを示させていただきました。冒頭からお話ししています通り、グローバルでのアルミ缶の需要は堅調に推移していること。それから、タイ・日本における価格改定の効果は、上期中盤から下期にかけて段階的に発現すること。日本・東南アジアにおいては、やはり原材料価格の高止まり、あるいはタイパーツにおけるパーツ高の為替影響、というようなことが事業環境として認識してございます。

また、直近のトピックスとして、やはり皆さん大変関心事が多いと思うのですが、米国の関税政策。こういったところは今後注視していく必要ありますが、現時点では大きな影響は出ていないのが足元の状況でございます。また、サプライチェーンについて、いくつかの混乱が生じておりますけれども、今のところ影響は軽微になってございます。

2. 業績予想

2025年度下期の事業環境のポイント

青字：ポジティブ影響
赤字：ネガティブ影響

	日 本		北 米		東南アジア・その他地域		
需要動向	飲料缶市場	堅調	飲料缶市場	需要予測に変化はなく、 年率3%での成長 を見込む	飲料缶市場	東南アジア域は拡大傾向 欧州向けは堅調	
	半導体製造装置	厚板の需要回復遅延	自動車市場	今後のBEVの生産動向を注視			
	建築材等	弱含み					
サプライチェーンの影響	缶材	需要家のシステム障害による影響は限定的	缶材	北米圧延メーカーの生産障害による影響は限定的	缶材	北米圧延メーカーの生産障害により、 追加受注 あり	
	自動車材	北米圧延メーカーの生産障害により、 米国向け出荷が追加	自動車部品	半導体の供給不安により完成車生産に不透明感あり			
	自動車関連材	米国関税影響や半導体の供給不安により完成車生産に不透明感あり					
販売・利益	<ul style="list-style-type: none">価格改定効果の発現輸出货量増加により品種構成が変化原材料価格高騰の影響を受ける		缶材	長期的な顧客との信頼関係をベースに、 持続的な販売契約 を獲得	<ul style="list-style-type: none">中国メーカーの販売攻勢は強力であるも、落ち着きつつある契約更改時の価格改定交渉を継続原材料価格の高騰や為替変動の影響を受ける		
			缶材	リサイクル原料のコストメリットが発現			
			自動車部品	IRA*に基づくEV購入の税額控除が終了し、上期は駆け込み需要、下期の動向を注視			

© UACJ Corporation. All rights reserved. *IRA インフレ抑制法(Inflation Reduction Act)

14

14 ページに、もう少々事業環境のポイント、変化点を詳しく説明してございます。

この点につきましては、ちょっと全件はこの中ではご説明できませんが、まず需要動向一番上の列をご参照ください。左側から日本、北米、東南アジア、その他、という形で記載してございます。缶材におきましては堅調、全市場で堅調に推移している。一番右側を見ていただきますと、飲料缶のところで、欧州向けは堅調とありますけれども、米国・日本・東南アジアに加えて、ヨーロッパ向けの出荷も続いているということでございます。その他、一方、日本のところは半導体製造装置、

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

それから建材関係、ここは事業回復が若干遅れている、あるいは弱含みというところが、足元も続いている状況でございます。

さらに、サプライチェーンの展開におきましては、日本国内でお客様のシステム障害という話が出ておりますけれども、ここは非常に限定的。それから、自動車材あるいは自動車関連材のところに記載しております、北米の圧延メーカーの生産障害について、この辺は国内からアメリカに向けての出荷が追加されているところもございます。その他、自動車部品、自動車関連材におきましては、米国関税の影響や、あるいは半導体の供給不安等によって、この辺は不透明感がありますのでよく注視する必要がある状況でございます。

販売・利益のところ、それぞれプラスマイナスが出てきておりますけれども、国内におきましては価格改定の効果が発現してくるということ。それから北米におきましては、缶材のところ、リサイクル原料のコストメリットが下期から大きく寄与してくるということ。それから東南アジアにおきましては、価格改定交渉の継続で、少し効果を出してくるということ。一方、原材料価格の高騰、為替変動、こういったところも注視していく必要がある状況でございます。

2. 業績予想

2025年度 通期業績見通し

通期前提条件

	FY24 実績	FY25 通期 (5月)	FY25 最新	
LME	2,526	2,500	2,666	\$/t
為替レート	153	145	148	円/\$
ドバイ原油	34.9	34.5	32.6	THB/\$
	78	80	67	\$/B

事業利益は計画通り460億円、最終利益・配当見通しを上方修正

(単位: 億円)	2024年度 実績(A)	2025年度見通し 5月時点(B)	2025年度見通し 最新(C)	増減 (C)-(A)	増減 (C)-(B)
売上収益	9,988	10,400	11,000	1,012	600
事業利益	459	460	460	1	0
棚卸資産影響等	115	△ 10	90	△ 25	100
営業利益	574	450	550	△ 24	100
親会社の所有者に帰属する当期利益	280	200	230	△ 50	30
1株あたり当期純利益(円/株)*	146.5	110.5	127.0	△ 19.4	16.5
Adjusted EBITDA	840	855	855	15	0
年間配当	37.5円/株	40.0円/株	42.0円/株	4.5円/株	2.0円/株

* 前会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して算定
© UACJ Corporation. All rights reserved.

15

これらの状況を受けまして、2025 年度通期の見通しは、C の列に記載してございます。

売上収益は 1 兆 1,000 億円。右側見ていただきますと、これは対 5 月の見通しになりますけれども、対 5 月の見通しに対して 600 億円増。事業利益は 5 月の見通し通り 460 億円、それから下の当期利益におきましては、ここは 30 億増の 230 億円を予定してございます。30 億増の上方修正

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



を受けまして、年間配当については、5月見通しの1株40円から1株42円、2円の上方修正を予定しています。

2. 業績予想

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品種	2024年度 実績(A)	2025年見通し 5月時点(B)	2025年度見通し 最新(C)	増減 (C)-(A)	増減 (C)-(B)
缶材*	851	928	927	76	△ 1
箔地	42	42	41	△ 1	△ 1
IT材	10	11	15	5	4
自動車材	134	136	137	3	1
厚板	42	47	38	△ 4	△ 9
その他一般材	187	187	188	1	1
合計	1,266	1,351	1,347	81	△ 4
国内市場向け	489	490	479	△ 10	△ 11
海外市場向け	777	861	868	91	7

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 内部取引控除後の数量

16

次に、品種別売上数量をご説明してまいります。

全体感は、上期とだいたい似通ったところになりますが、上期トータルで134万7千トンというのが実績となります。

一番右の列には、これは対5月との増減差を示しておりますけれども、缶材、箔地、IT材、自動車材、おおむね上期発表の通りとなります。ただ一方で、厚板のところをご覧くださいと、上期発表当時には、下期から厚板関係、回復してくるだろうと見越しておりましたけれども、残念ながらまだ少し回復が遅れているというのが足元の状況でございます。ただしトータルとしては、ほぼ5月の見通し通りというような状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



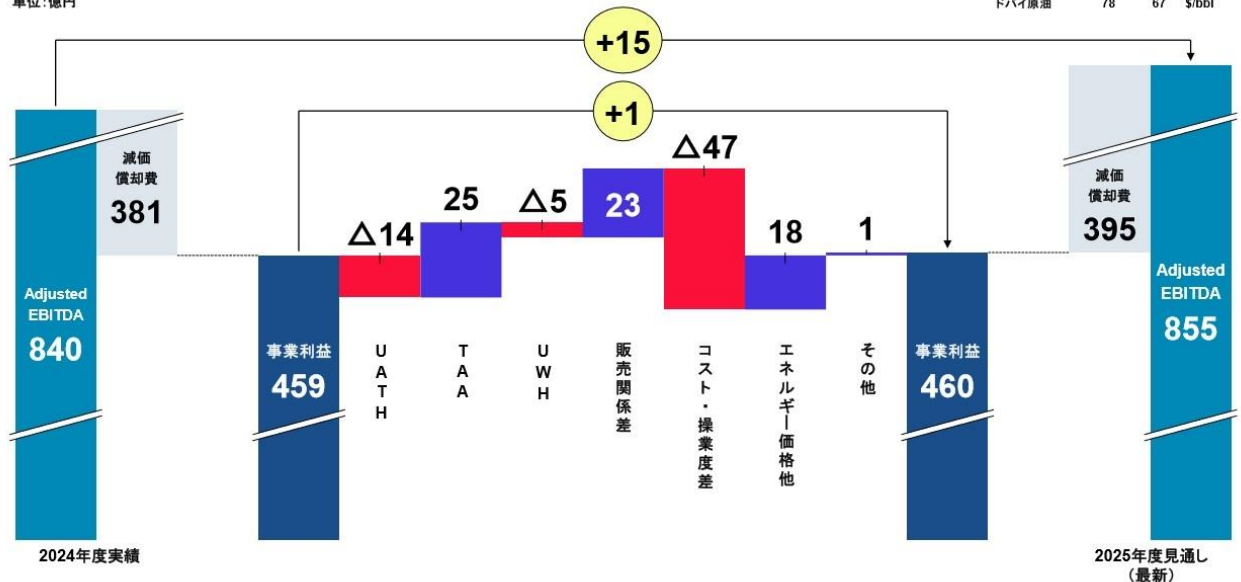
2. 業績予想

事業利益分析（2024年度 → 2025年度最新見通し）

単位: 億円

通期前提条件 (FY24 → FY25最新)

LME	2,526	2,666	\$/t
為替レート	153	148	円/\$
ドバイ原油	34.9	32.6	THB/\$
	78	67	\$/bbl



© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

次に、事業利益分析のところを見ていきます。

これは、2024年度と25年度の通期の最新見通しになります。事業利益は、昨年度459億円に対して最終は通期として460億円が変わりありませんが、個々に若干の変化が生じてきております。

まずUATH、こちらは上期と同様ですけれども、販売数量は伸びるものの、リサイクル原料価格の高止まり、それからパーツ高といったところが残りの、一方で価格改定のところがありますので、こういったところで挽回して、最終的には14億円の減です。

それからTAAにつきましては、この下期より、リサイクル原料価格のコストメリットが効果として入ってまいります。ただ一方で、インフレに伴うコスト増、それから円高による為替差等があり、下期としてはその効果を織り込んだ上で、25億円の増。

次は販売関係差になりますけれども、こちらは23億円のプラスになっておりますが、値上げ効果が浸透して23億円増。

それからコスト・操業度差につきましては、やはり前半のリサイクル原料のコストアップ等々が残るといふこと、それから物流副資材のインフレ等による価格等々があります。国内あるいはタイでも含めて、お客様との価格交渉をしております、下期については徐々に上がってくるところですけれども、通期としては47億円の減となります。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

その他、エネルギー、添加合金のところにつきましては、単価の見直しもあり、18 億円の増でございます。引き続きこちらのほう、お客様とも話をしながら、価格改定のところを順次進めている状況でございます。

2. 業績予想

株主還元方針

年間配当金見通しを 42円 に上方修正

第4次中期経営計画期間 還元方針

安定的かつ継続的な配当を目指す

⇒第4次中期経営計画(24~27年度)期間中の
配当性向は最終利益の30%以上が目標

	2024年度	2025年度見通し (最新)
最終利益	280億円	230億円
年間配当	37.5円/株	42円/株
配当性向	25.6%	33.1%
自己株式 取得	(2025年2月) 300万株/151億円	-

前会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して算定

© UACJ Corporation. All rights reserved.

1株当たり配当/1株当たり当期利益

(単位:円)



18

18 ページ、株主の還元方針のところでは、

安定的かつ継続的な配当というのは方針として変わっておりません。今回、最終利益を 230 億円に上方修正するというので、これに合わせて年間配当も 42 円で、昨年度より上方修正で考えてございます。この 42 円への年間配当の見直しによって、配当性向といたしましては 33.1%という実績になる予定でございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

3. 企業価値の向上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

格付A格を取得、β値^{*1}の改善により資本コスト低減

株式価値最大化に向けて（第4次中計にて公表）

ROEの改善（目標9%以上）

- 事業利益目標：600億円
- ROIC目標：9%以上
- 価値創造プロセス
- 事業戦略
- 成長シナリオ

**資本コスト低減（目標7%台）
期待成長率の引き上げ**

- 最適資本構成の実現
⇒ 格付A格の確保
- 配当性向30%以上
- サステナブルな事業戦略の策定
- 非財務分野での価値創出
- 情報開示、エンゲージメント強化

エクイティ・スプレッド

1%以上に拡大

PBR^{*2} 1.21倍
株式価値最大化
(PBR1.0倍以上)



*1 β値出典：SPEEDA Levered β(5年過去)
© UACJ Corporation. All rights reserved. *2 PBR = 時価総額(2025年10月31日終値)／親会社の所有者に帰属する持分(2025年9月末)

20

最後のセクション、企業価値の向上になります。20 ページをご参照ください。

ここはこの上期から下期についてになります。2025 年度、格付 A 格を取得、それから β 値は改善が見られておりまして、資本コストが低減となります。

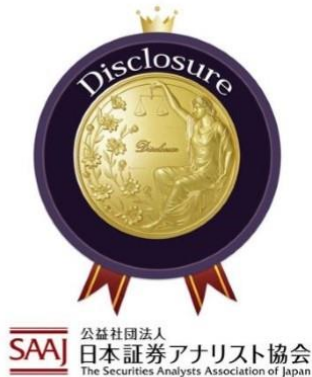
右下に、株価の推移、ならびに PBR の推移を示しております。左端は 2022 年度の 4 月から記載しております。PBR におきましては、当時 0.5 倍程度でありましたけれども、2025 年、先月末、10 月 31 日末の株価で見ると、PBR は 1.21 倍まで成長してきた状況でございます。引き続き、更なる PBR の上昇を目指していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

資本市場との対話

ディスクロージャー 2025年度 優良企業



「ディスクロージャー優良企業(2025年度)」 鉄鋼・非鉄金属部門で2年連続1位獲得

当社は、

- 経営陣のIR姿勢
- 経営陣のESGに対する取り組み姿勢

の項目において高い評価をいただき、
ディスクロージャー優良企業(2025年度)において
鉄鋼・非鉄金属部門で2年連続1位を獲得しました。

今後も、ステークホルダーの皆さまとの対話の機会や
情報開示の質や量の充実と向上に積極的に関わり、
中長期の経営戦略、事業活動へのご理解を深めていただき、
企業価値の向上に努めてまいります。

© UACJ Corporation. All rights reserved. ご参照 「ディスクロージャー優良企業(2025年度)」鉄鋼・非鉄金属部門で2年連続の1位獲得: グローバルアルミニウムメジャーグループ 株式会社UACJ (2025年10月15日)

21

21 ページ、本年度は昨年度に続き、ディスクロージャー優良企業で、2年連続1位をいただきました。引き続き、しっかりとステークホルダーの皆様と対話の機会を作り、情報開示をしっかりとしていきたいと考えております。

日本初*1、グリーン新地金*2100%のアルミ薄板をカタログ品として発売

環境配慮型製品「ALmitas+ SMART」として、脱炭素社会の実現に貢献

- ✓ マスバランス方式でグリーン新地金を100%適用したアルミ汎用薄板を、
10月から販売開始
- ✓ 非化石エネルギーを発電源として、精錬時のGHG排出量を従来比
半分以上*3に低減
- ✓ 建築、半導体製造装置、輸送機器分野などの分野で採用を見込み、
環境負荷低減に貢献
- ✓ 環境価値と供給安定性を両立し、顧客の脱炭素ニーズに対応

*1 2025年8月当社調べ

*2 グリーン新地金: 非化石エネルギーを発電源とした製錬により生産されるアルミ新地金

*3 日本輸入平均(一般社団法人日本アルミニウム協会2022年発行レポートより)

ご参照-1) 日本初、グリーン新地金100%のアルミ汎用薄板を発売: グローバルアルミニウムメジャーグループ 株式会社UACJ (2025年9月1日)

ご参照-2) グリーンとリサイクルに関する用語、リサイクル率の計算方法: 日本アルミニウム協会 (2025年6月9日)

© UACJ Corporation. All rights reserved.



アルミ薄板製造のイメージ

22

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

22 ページ、ALmitas+ SMART というブランドを立ち上げております。一般材におきましても、マスバランス方式で保証した 100%グリーン材を発売するということでの情報を提供させていただきました。

3. 企業価値の向上

人的資本経営の深化

多様な人材が活躍できる職場づくりを推進
～「プラチナくるみん」の認定取得および共育プロジェクトの好事例企業として紹介～



働き方改革EXPOにおける「共育プロジェクト」の出展ブースの様子

- ✓ 男性育休取得率70%超、不妊治療支援制度を整備し、「プラチナくるみん」¹の認定を取得
- ✓ 厚生労働省「共育プロジェクト」²において、男性の育児休業に積極的に取り組む好事例企業として紹介
- ✓ 福利厚生制度の活用・充実を通じて、より働きやすい職場環境を構築し、会社の持続可能な成長を目指す

¹プラチナくるみん URL: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/kurumin/index.html

²厚生労働省「共育プロジェクト」URL: <https://tomoiku.mhlw.go.jp/>

ご参照 厚生労働省「共育(トモイク)プロジェクト」の好事例企業に「グローバル・アルミニウム・メジャーグループ 株式会社UACJ」(2025年9月1日)

子育てサポート企業として厚生労働大臣より「プラチナくるみん」認定を取得「グローバル・アルミニウム・メジャーグループ 株式会社UACJ」(2025年10月6日)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

23

最後、「人的資本経営の深化」とあります。やはり一人ひとり働く人の、人的資本をしっかりと役立てていくということで、こういったところも力を入れていく活動を展開してございます。

事業利益・Adjusted EBITDA 推移

第4次中期経営計画達成に向けて、順調に進捗。さらなる向上へ



© UACJ Corporation. All rights reserved.

24

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



最後のページは、これまでの Adjusted EBITDA の推移を示しております。

ここまで、上期の実績ならびに通期見通しをお話しさせていただきましたけれども、先ほど言った通り、米国関税の影響、缶材あるいは自動車材、その他サプライチェーンの乱れもあって、比較的先が見通しづらい不透明な状況は続きますが、下期で確実に事業利益で挽回し、増収に繋げていくということをしっかりやっていきたいと思います。

今後のIRイベント

サステナビリティ説明会@Zoom

2025年11月26日(水) 10:00~12:00

登壇者

代表取締役 社長執行役員
執行役員 サステナビリティ推進本部長
執行役員 ビジネスサポート本部長

田中 信二
成田 緑
浦吉 幸男

独立社外取締役
独立社外取締役

永田 亮子
赤羽 真紀子

航空宇宙・防衛材事業に関する事業説明会@Zoom

2025年12月22日(月) 14:30~15:30

登壇者

鑄鍛製作所 所長

吉田 晴高 他

© UACJ Corporation. All rights reserved.

25

最後になりますけれども、今後の IR イベントについてまとめさせていただきました。11月26日にサステナビリティ説明会、12月22日に航空宇宙・防衛材に関する事業説明会を予定しておりますので、奮ってご参加いただけるようお願い申し上げます。

私からの説明は以上となります。

上田：当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

上田 [M]：これより皆様からのご質問をお受けいたします。ただ、ご質問の内容によって事業活動に影響を及ぼす可能性がある場合は回答を控えさせていただくことがございますが、ご了承いただけますようお願い申し上げます。

それでは、最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社 山口様、ご質問をお願いいたします。

山口 [Q]：いつもお世話になっております。ありがとうございます。ちょっと確認なのですが、大事なポイントなので。

4. ご参考

海外主要子会社 業績推移

(単位: 億円)

	2024年度							2025年度			
UATH	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	通期見通し
販売量(千トン)	72	77	149	78	79	157	306	74	83	157	328
売上収益	453	494	947	521	546	1,067	2,014	467	525	992	2,255
営業利益	52	7	59	△ 5	0	△ 5	54	△ 15	△ 5	△ 19	5
(棚卸資産影響)	33	△ 4	29	△ 11	2	△ 9	20	△ 15	△ 10	△ 25	△ 15
事業利益	19	11	30	6	△ 2	4	34	0	5	5	20
TAA	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	通期見通し
販売量(千トン)	109	118	227	106	116	222	449	128	122	250	497
売上収益	713	721	1,434	685	798	1,483	2,917	845	952	1,797	3,897
営業利益	107	75	181	73	74	147	328	66	126	192	399
(棚卸資産影響)	24	△ 2	22	21	36	57	79	16	73	89	125
事業利益	83	77	160	52	37	89	249	50	53	103	274
UWH	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	通期見通し
売上収益	101	93	195	84	96	180	375	94	100	194	385
営業利益	4	2	6	△ 2	5	3	9	△ 0	6	6	5
(棚卸資産影響)	△ 1	0	△ 2	0	△ 3	△ 3	△ 5	△ 1	△ 1	△ 2	△ 4
事業利益	5	3	8	△ 2	8	6	14	1	7	8	9

31 ページ目の TAA の事業利益、棚卸影響を除いたものが 274 となっているのですが。通期見通しを営業利益から引き算すると 214 ですよね。棚卸のところを確認したい、数字大丈夫ですかという話。それは後でもいいので、事務方の方、計算してください。

上期、下期というところで計算してみますと、いわゆる全部の利益から開示されている TAA という UATH と UWH を引いたものというのが、上期が事業利益で 52 億円、下期が 165 億円で、通期 217 億円という大ジャンプをするので。この上期、下期の利益というのは、海外子会社以外の部分の収益のジャンプがとても大きいのですが、今のご説明ですと、値上げ効果が浸透していくような

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ことをおっしゃっていたのですが。この上期、下期の、海外子会社以外のところの部分の利益のジャンプを大きく増益する見通しであるところに関して、ご解説をいただきたいというのが1点目です。

2点目は、米国に関するところですが。中西部のプレミアムを見ていると大変高くなっている一方で、スクラップのスポット市況は、あまり上がってないことから利ザヤは、一見すると非常に高く見えるので。もう少しTAAのメタルベネフィット出ているのかなと見ていたのですが、そうではないのですかというか、それはやはり契約価格とかいろんなものがあるのと。先ほどおっしゃっていた、その他の物価が上がっているということで、何らかの形でそういったメリットが消えているのかどうかも含めて、TAAへの利益の見通しを教えてください。

最後、見方を教えてください。今年の下期の決算が達成できますと、下期の事業利益が290億円ということになると思うのですが、倍にすると600ですね。600は中計の目標値に近いところになるのですけれども。御社の実力値というのは、もしこの下期の利益を実現すると、中計の目標値に近い数字になっているのでしょうか。ここら辺のご解説、一過性の要因も含めて、何か紛れ込んでないかも含めてご解説ください。3点です。

田中 [A] : ご質問ありがとうございます。まず1点目のご質問が、海外の事業以外で、国内での利益の増加ポイントがどんなところにあるか、というご質問だったかと思います。

この点については、まず、上期から下期にかけて、価格交渉がずいぶん進んできているところがあります。下期に大きな効果が出てくるというところが、やはり一番大きなポイントかと思えます。その他、品種構成の変化等々、この辺のところも、中の少し品種を切り替えていくということもあって、この辺のところも大きなプラス要因になってくるところかと思えます。その辺につきましては、補足で橋本から少し何か説明がございますか。

橋本 [A] : 今の計算していただくと、そういうことなのではございますけれども。基本的には、国内は昨年からのコストアップを受けて、今年の1月から価格交渉をスタートしているのですけれども。メインのところは、やはりこの下期からの反映や、一部は上期の途中からというところで、やはり下期に向けて上がるということなので。これは板もそうですし、押出もあるいは箔ということになって、その部分がここに大きく入っているということです。

あとは、やはり板なら板事業部の中で、タイもありますしアメリカにもありますし、そこら辺を見通しながら、全体の中でこのレベルはやっていくというところで、今、計画は見直されています。そのように理解いただければいいかなと思います。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

山口 [M]：了解いたしました。

田中 [A]：それでは2点目の、米国のプレミアム、TAA等中心に考えると、もうちょっと利益が出るのではないかとこの観点でございます。この点につきましては、確かに今、北米の方でプレミアムの上昇でスプレッドがかなり拡大し、大きな差になって現れてきています。

ただし、こちらは、例えば今、スポットだけで見るとそういった形には当然もっともっと大きく見えるのですけれども、やはり購入の仕方ですね。長期に契約しているもの、それからスポットで契約しているもの、あるいはお客様から戻ってくるリサイクル材等々も含め全体のバランスで購入しているというのが足元の状況です。単純に今、出てきているスプレッドだけで説明ができる訳ではないというのはわれわれの実績かと思います。ただし、下期からは、われわれの購入計画に従って入ってきますので、この辺についてはかなりその辺の利益としては大きく増えてくるだろうと考えています。

山口 [Q]：でも、上期と下期の事業利益の見通し横ばい、ちょっと若干増益程度にしか見えないのですけど、この214だとすると。下期274なのですか、さっきの話に戻るのですが。

岡田 [A]：通期で見ますと274、これが正解で、営業利益のところがちょっとミスプリがありまして、今、営業利益は339になってございますけれども、399が正解です。

山口 [M]：なるほど分かりました。

岡田 [M]：失礼いたしました。申し訳ございません。

山口 [M]：ここは株価が下がるポイントだと思って、ちょっとびっくりしていたのですけど、そういうことですね。了解いたしました。

岡田 [M]：失礼いたしました。

山口 [M]：分かりました。納得しました。

田中 [M]：そうですか。ありがとうございます。

山口 [Q]：3点目をお願いします。なんか600億届きそうな勢いですが、いかがですか。

田中 [A]：確かに、下期はかなり好転をしてまいります。それで、これが倍をして、例えば年間を通じてなるかどうか、この辺の点については、下期に入ったばかりですので、この3クォーターの結果も踏まえて、来年度1年間でどれぐらいの事業利益になるのか、この辺のところは見極めていきたいなと考えています。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

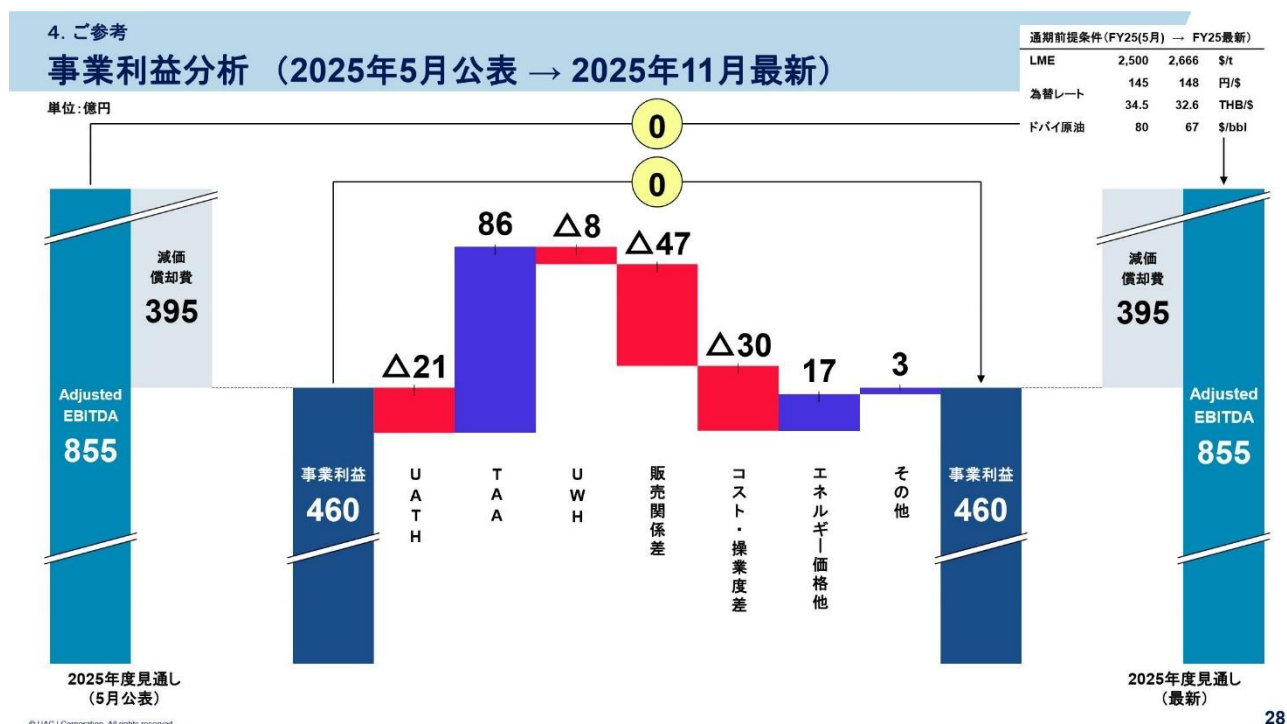
山口 [M]：中計の内訳がずれているのは、やはり UATH がパーツ高とか、そういったところでずれている感じですね。全体で、バランスでいきたいですね、何か突出して価格だけでアメリカでいくではなくて、全部の拠点でいきたいという感じですね。分かりました。ありがとうございます。

田中 [M]：プラス要因、マイナス要因、さまざまに少し出てきておりますので、一つ一つ丁寧にちょっと見極めながら、全体のバランスをきちんととっていきたいと考えています。

山口 [M]：ありがとうございました。失礼いたします。

上田 [M]：山口様、ありがとうございました。では、次のご質問は、野村証券株式会社 松本様、ご質問をお願いいたします。

松本 [Q]：野村證券の松本でございます。ご説明ありがとうございます。



1 点目は、28 ページのこのチャートを見ての質問です。やはり、販売関係差とコスト・操業度差の下方修正が結構大きな枠になっているので、これをもう少し細かくブレイクダウンを教えていただければと思います。

それから 2 点目は、タイの問題ですね。為替とか、いつも何か聞いている話は同じような話を聞いているのですが。これに対して、どういう対策をとっていくのかというところについて教えてください。以上です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

田中 [M]：1 点目の販売関係とコスト関係、岡田から簡単に。

岡田 [A]：では、最初のご質問、岡田からご説明いたします。まず、販売関係差マイナス 47 というところになりますけれども。元々、5 月の予定では、繰り返しのなってしまうのですが、下期偏重で、半導体の需要増加というところを非常に期待しておりました。しかし、ここが遅延するというので、この分が採算のところに入れ替えがあり、品種構成によるマイナスが大きくなる場所があり、その影響額としてざっくりですが 30 億ぐらい出るかなと見ております。

あと関係会社、グループですね。ここは押出とか関係会社が国内にございますけれども、全体として合計すると 10 億強の影響が出ているところも大きな要因です。5 月から今回の販売のところで、当然ロールマージン、値上げの状況につきましては、当初予定通り進捗していますので、その上下限は基本的に見ていないところがこの販売のところになります。

コスト・操業度のところは、冒頭、田中の方から決算の説明で資料をご説明させていただきましたけれども、やはりコストですね。インフレが当初考えていたものよりも、人件費および副資材、そういったさまざまな価格が上がったところが、この約 30 億のうちの、半分強はその影響が出ているとご認識いただければと思います。岡田からは以上です。

田中 [A]：田中です。さらに併せて、そのインフレに伴う価格のところの上昇については、この後きっちりお客様ご相談しながら、その辺のところは次の価格の中にきちんと織り込んでやっていくということで、現在進めてございます。それではよろしかったでしょうか、1 点目。

松本 [M]：1 点目、大丈夫です。ありがとうございます。

田中 [A]：2 点目の、タイのところをどうやってこの先、進めるのかであります。確かに、かなり為替の影響、それから原料コストのところ、これらが圧迫になっているのが足元の状況です。この点につきましては、この下期にかけても進んでおります価格改定ですね。価格の見直し、こういったところが柱になってくるだろうと思います。あと量的にも少し伸ばせる場所がありますので、量を伸ばすとともに、価格改定をしっかりと行っていくということ。

それから併せて、長期契約のところについては、すぐにはいかないのですが、お客様や品種構成といったところの見直しの余地がまだまだあると考えておりますので、そういったところを含めて、タイの事業利益、向上に努めていくということで進めていきたいと考えております。

松本 [M]：分かりました。ありがとうございました。

田中 [M]：ありがとうございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。では、次のご質問はモルガン・スタンレーMUFG 証券株式会社 白川様、お願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。質問 2 点、よろしくお願いいたします。

28 ページの TAA のアメリカのところなのですけど。86 億円の好転で、これが全て今回のメタルベネフィットの好転を織り込んだものなのかというところ。あと、諸元というか、足元ものすごくマージンが拡大しているので、86 億円だとすると、下期、20 数万トンで計算すると、多分 500 ドルもマージンが上から下にかけて良化しないような織り込みかなと思うのですけども。こういった条件で織り込んでいるかを教えてください。それが 1 点目です。

2 点目ですけれども、国内の価格改定のところですけども。下期から効果が出ていくところで期待はしたいのですけれども、来期以降、これが真水でどれだけ残るかを聞かせください。

まず今年に関しては、すみません 17 ページのところで、販売関係差 23 億円プラスで、YoY では残る形ですけども。これが全て価格の話なのか、ここは構成の話もあると思うので、価格はどれぐらいで、来期はそれに掛ける 2 をすればいいのかなとも思うのですけども。こういった考えをしたらよいかを教えてください。以上です。

田中 [M]：ありがとうございます。1 点目のアメリカ、TAA のメタルベネフィットの構成ですかね、この辺のところ岡田から。

岡田 [A]：28 ページ、ご質問の 86 億が全てメタルの原材料のメリットなのかですけども、その通りでございます。確かにインフレ等々の影響はあるものの、それをカバーしてこの 86 億を捻出しているところです。とはいえ、先ほど田中から説明ありましたが、今年のそういったメタル、原材料の調達の手配というのは、もうほぼ終わってございます。購入から 3 カ月から 5 カ月ぐらいのラグもありますので、この 86 はほぼこの損益の中に含まれているというご認識でよいと思います。もう少しプラスで出ることを期待はしてございますけど、そういう考えで数量は出しております。

田中 [A]：併せて今のところですけど、岡田から 3 カ月から 5 カ月ぐらい遅れて発現するということがありましたけども。ちょうど米国関税の発表されたのが、25%は確か 2 月の前半、それが 50%になったのが 6 月だったと思うのですよね。その辺りから急激にスプレッドが広がってきていることもあって、時期的にも下期から発現してくるということ。だから実際にこの効果が半年分しか効果がない。逆に言うと、前半分は関税影響を受ける前の高いところでの原料コストだったということ

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



です。今期としては、86 億で止まっていますが、来期以降はまだ増えてくという可能性があるということになるかと思います。

それでは 2 点目の価格改定のところ、来期以降のところを含めてというところであります。橋本の方からまず状況の説明をして、それから岡田から少しどれぐらいになりそうかという説明をしてください。

橋本 [M]：今 23 億とおっしゃったのは、この 17 ページの図をおっしゃっているのですかね。ということよろしいですか。

白川 [M]：はい。

橋本 [A]：これは 24 年から 25 年の最新見通しということで、ここに入っていますけども。ただ、販売関係差ですので、中身はもちろん値上げの部分もありますし、あるいは数量構成差等の変化もふまえ、販売関係のところのプラスマイナスを全部織り込んだ上でのこの 23 億です。これが値上げの金額そのままということではないですね。

基本的には、この右側にありますコストのアップ部分を、お客様にお願いしていくということですので、このコストアップが、来年 4 月からどうなのかということもふまえ、これからの交渉することもありますので、具体的に来年、真水でどのぐらいかということ具体的にちょっと数字を申し上げることは難しいかなというところが、ご質問の答えになります。

白川 [Q]：分かりました。すみません 1 点目のところですが、今後の一応リスクとして、今、アメリカのスクラップの価格、UBC のスクラップの価格が上がっていないというのは分かるのですが。ここからスチール・ダイナミクスとか立ち上がっていく中で、スクラップの需給がタイト化されて、マージンが縮小していくリスクというのは、来期、考えなくていいのでしょうか。

田中 [A]：ここについては、関税のところは、正直言うとなかなか読み切れません。これがもう 50%から何%になるのかということ、ここについてはやはり不透明なところは続きます。しかし一方では、われわれの長期にわたるスクラップの購入方法については、単純に今のスポットで調達している訳ではなく、長期契約をしつつ、さらにスポット調達などをうまく組み合わせながら、戦略的な調達をしております。突然どこかの他ミルが立ち上がったから、原材料価格がボンと上がったということではない、ということでございます。

白川 [M]：分かりました。ありがとうございます。

田中 [M]：よろしかったでしょうか。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。では次は、大和証券株式会社の尾崎様、ご質問をお願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。よろしくお願いします。

1 点目が、今年度の事業利益のご計画を 460 億円で据え置かれている点について、数字の位置付けを確認させてください。TAA のメタルベネフィットなどで、結構プラスの効果も期待されていた中での今回の据え置きという数字なのですけれども。元々の 460 億円を変えないというのを前提に、ちょっと上振れ余地を残した形での据え置きなのか。あるいは、コストとか販売関係差とか、想定していなかった実際のネガティブ影響も強いので、ニュートラルな位置付けで 460 億円にしているのか。実は、上期の進捗も含めると少し下振れのリスクも内包しているのか。この 460 億円の据え置きの位置付けを可能な限りで教えてください。

2 点目が UWH です。下期に向けて少し損益が悪くなると思うのですけれども、その背景と今後の改善施策について教えてください。以上です。

田中 [M]：それでは 1 点目の、460 億円の見方について、岡田からご説明させていただきます。

岡田 [A]：どの辺の肌感なのかというご質問だと思います。460 億円は、達成できる金額だと見ており、上振れする期待を持っているところではございます。ただ、14 ページで環境認識のところを、3 地域の状況を整理させていただいていますが、この辺の不透明さが実はまだ残っていて、ほぼ 460 億円はしっかりと実現させないといけないという目線が、どちらかというと強いかなと思っています。

田中 [M]：2 点目の UWH につきましては隈元から。

隈元 [A]：確かに下期、若干弱いかなと見ております。例えば、EV 関係で自動車メーカーの生産見直しなどのメディア報道が出ています。実際のところ、そういった EV 関係、あるいは車を軽くしたいというようなところからのご引き合いというのが中心な訳ですけれども。ここがちょっと逆風になるのかなという、まだそれが顕在化しているところまでは行っておりませんが、若干弱含むのかなというところを織り込んでいるというのが下期、若干弱気に見たというところの理由でございます。

それに対する対策ですけれども、これはもう生産効率を上げて、生産コストを下げていくというような。特に何か魔法の杖がある訳ではございませんので、そういうものを地道に積み上げて、乗り切っていくということかなと話をしているところでございます。

尾崎 [M]：分かりました。ありがとうございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。では次は、UBS 証券株式会社の五老様、ご質問をお願いいたします。

五老 [Q]：UBS 証券、五老です。よろしくお願いいたします。三つあります。

一つは数量の変化です。想定と違って需要が下振れた部分、厚板などについてご説明があったかと思います。これまでの説明会では、例えば、日本から欧州向けの輸出は、国内の不振をある程度カバーしているというお話しがありました。あるいは、タイから北米向けの出荷については、当面、枠の範囲内であればまだ続けられるというところ、これが来期には、北米での上工程の立ち上げもあるので、入り繰りもあるかと思います。

今回、改めて足元の需要の見通しに置き直した上で、来期に向けての数量の回復・拡大シナリオ、例えば元々タイで見ていた増販シナリオは、足元の環境でも来期に向けては達成可能と見てよいのか。数量は地域間の入り繰りもあって、読みも難しいと思っていますが、従来の見方と変化させる必要があるかどうか確認させてください。

2点目は、今回の価格転嫁のタイムラグのお話しです。元々、コストの変動を読み切れずというところは、今後転嫁していくお話しがありました。数年に渡って取り組んでいる価格改定への取り組みですが、業界のリーダーとして、先陣を切ってやられている印象はあるのですが、柔軟にタイムリーに転嫁するというような機動性は、当初ほどではなくなっている印象もあります。年1回の価格交渉に限らず、価格、コスト、リスクなどに対して、フレキシブルに対処する余地はあるのかなのか。この辺り、価格の仕組みをもう一度整理させてください。

最後は、設備投資、キャッシュ・フローの考え方です。今期、キャッシュ・フローはアウトの方が先行していると思います。中計期間に予定されている設備投資が前倒しで進んでいることが背景だと思いますが、26年、27年になるとキャッシュ・アウトが収まってくことで、財務内容やフリーキャッシュ・フローが改善してくるという理解でいいのか、確認させてください。インフル影響などもあると思いますので、併せて確認させてください。よろしくお願いいたします。

田中 [M]：ありがとうございます。まず1点目の数量変化、これは従来と同じような見方でいいかという点。それから2点目の価格転嫁の話、この辺のタイミングは今どうなっているのかというところについて、橋本から回答します。

橋本 [A]：まず1点目、欧州向けとタイについてご説明します。

欧州向けでは、状況は変わっていないです。ガラス瓶のコストアップが影響し、欧州で、缶材が足りないということで、タイやアメリカの取引させてもらっているお客様から、ヨーロッパ向けの要

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

望を受けています。増量要請が来ている状況で、今、国内で生産能力的に余力のある部分をヨーロッパ向けに持っていつています。国内もできるだけ生産性を上げて、数量を増やそうとしています。価格もかなり良くなってきていますので、そのトレンドは変わってないということでご報告いたします。

タイですけれども、今、決まっていますアメリカ向けについては基本的には継続ということで、来年度の上期までは継続が決まっています。その後も、新しいミルが立ち上がりますけれども、立ち上がり始めということもあって、お客様はかなり慎重にされているところがあり、状況によってはそのまま継続という話も来ています。アメリカ向けは引き続き、そういう意味では一定の量は続くと思っています。

あと新しい話は、欧州向けで、イギリスについてはタイからの関税がかからない状況に今、変わってきています。その辺りの契約も進んでいまして、そういう意味では、UATH もポートフォリオ的には、アメリカ向けが若干減ったとしても、欧州向けの確保によってポートフォリオも悪化することはないだろうと見ています。

それから2点目の、価格改定の機動性についてのご質問ですが、お客様からは、価格改定の頻度が上がっている、と逆に厳しいお言葉もいただいています。毎年、コストが非常に上がっていますので、そこを睨みながら、個々にお願ひする、あるいは品種ごとの生産性も踏まえて改善をお願ひしています。年に1回と言いますか、状況の変化があるところでお願ひしていく形で進めております。そのように、この数年お願ひしている状況の中で、進めているとご理解いただければと思います。

田中 [A] : 1点目の数量について言うと、全体数量としては昨年度を上回る形で確保しています。国内で厚板等が落ち込んだ分は、今橋本も言った、ヨーロッパへの輸出等をさらに拡大しながら、全体としてはきちんと量を確保するよう進めております。北米、東南アジア、日本、それぞれ地域ごとに状況が変わってきておりますが、グローバル3拠点でうまく融通し合いながら量を確保する、適切なところに適切なタイミングで出荷する、こういった形で進めたいと考えております。

それから3点目の設備投資については、岡田から説明をお願いします。

岡田 [A] : ご質問の内容に関してですけれども、元々第4次中期経営計画では、営業キャッシュ・フローから設備投資に振り向ける金額として1,600億円を計画しております。これは、財務規律を守る前提で考えています。その中で、2027年に向けた事業利益、事業の拡大、さらに2030年に向けた先行投資が、この24、25、26年にもかかってくると考えています。ただ、財務体質を睨みながら、財務の方ではしっかりと舵をとって進めていきたいと考えております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

あと、一部、気候変動など環境に関する投資につきましては、補助金等の対象となるものもありますので、その辺も活用しながら、企業価値成長に向けて邁進していきたいと考えております。

五老 [Q]：フリーキャッシュ・フローは改善方向で見ておいてよいでしょうか。キャッシュ・アウトのピークアウトとフリーキャッシュ・フローの改善は、方向としては期待してよいのでしょうか。

岡田 [A]：はい。その方向で期待していただければと思います。

五老 [M]：分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。そろそろ予定の時間が迫ってまいりましたので、恐れ入りますが次の方を最後のお1人とさせていただきます。株式会社 SBI 証券の柴田様、ご質問をお願いいたします。

柴田 [Q]：SBI 証券の柴田です。一つ、よろしくお願いいたします。

為替の影響です。御社の説明会資料だと、基本的にドルに対して中立というような印象の説明になっているのですが、改めて、本当に中立なのかというところ。例えば、為替前提 148 円なのですが、足元、御社の為替想定よりも円安なのですけども、円安サイドに触れた場合、どんな影響があるのかを教えていただけないでしょうか。

田中 [M]：では、岡田からその辺のところについて。

岡田 [A]：当社の事業に関しては、円安方向に動くポジティブな方向に動きます。よい条件で試算すると、今後の変動の影響が大きく出てしまうこともありますので、直近の足元の平均を目線に、毎回、事業計画を考えているところです。145 円が堅いのかというところ、足元たしかに 150 円を超えてきていますので、円換算のところが少しポジティブな方向に働きます。

田中 [A]：併せて為替を言うと、円・ドルもちろんそうですが、パーツ・ドルもかなりインパクトとしてあります。両方合わせて見て、今回の想定をしております。

柴田 [Q]：ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。予定の時間がまいりましたので、本日の説明会は終了とさせていただきます。

田中 [M]：本日は、大変お忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

冒頭からお話ししました通り、この下期、通期を通して、非常に不透明な状況が続きそうだということで、色々な方面を睨みながら、今回の通期見通しを作ってきました。やはり周りの環境変化がずいぶん激しくなってきましたので、われわれもアンテナを高く張って、どういう環境変化が生じてきているか、これはリスクばかりではないと思いますので、チャンス、機会もあろうかと思えますので、そういったところをしっかりと収益に結びつけられるように進めていきたいと考えています。

また、われわれはアルミを扱っている業界のものとして、アルミの特性を活かして、循環型社会の実現、社会課題の解決に取り組み、それがわれわれの収益に結びつくよう、アルミに付加価値をしっかりと付けながら、今後も継続的に活動を展開していきたいと考えております。

今日は、長時間にわたって決算説明会ご参加いただき、どうもありがとうございました。

上田 [M]：以上をもちまして、株式会社 UACJ 2025 年度第 2 四半期決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

田中 [M]：ありがとうございました。

上田 [M]：今後も株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう邁進してまいりますので、引き続き弊社をご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、ならびに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com